

## フジスマートプラン21後期実施計画策定について

## 1. 計画策定の趣旨

本市のごみ処理基本計画(フジスマートプラン21)には、旧富士川町との合併による人口やごみ排出量の動向などの、社会環境の変化や国のごみ処理基本計画策定指針(温室効果ガスの発生抑制に向けた取り組みとして、焼却量を減らして、二酸化炭素の排出量を抑える。)の改定など、策定時に比べ、廃棄物を取り巻く環境に変化が生じてきている。

このような状況を踏まえ、平成17年度に策定したフジスマートプラン21中期実施計画(平成17年度～平成21年度)を見直し、フジスマートプラン後期実施計画(平成22年度～平成26年度)を作成する。

## 2. 目標値の修正

富士川町との合併を考慮し、新たにごみ処理量を推計し、フジスマートプラン21目標値との比較を行った。

## ◆H26年度における目標値達成予測

指標	目標値	単純推計値
1人1日あたり排出量	920g	858g
1人1日あたり焼却量	640g	684g
資源化率	30%	17.6%

指定袋制度の導入や分別品目細分化により、ごみの減量化に大きな効果が現れていることから、1人1日あたり排出量は目標値を下回って推移することが予想される。

一方で、1人1日あたり焼却量及び資源化率の推計値は、社会情勢の変動による資源化施策の変化もあり、目標値に及ばない。

このような状況の中で、今後さらにごみの減量化・資源化を実現するために各事業に取り組み、達成すべきフジスマートプラン21の新たな目標値を以下のとおりとする。

## ◆新しい目標値

1人1日あたり排出量	860g
1人1日あたり焼却量	640g
資源化率	23%

(資源化率目標値の修正について)

フジスマートプラン21の資源化率については、民間のRPF施設（容器包装以外の廃プラスチック類と紙くずを混ぜて加熱溶融して固形燃料化する施設）により資源化率の向上を図る計画を見込んだが、民間における採算性の問題やバイオマスエネルギーへの方向転換等により施設の設置には至っていない。

また、RPF施設で使用する原材料の一部となる紙くずについては、古紙として資源化が可能なものを「その他の紙」として平成18年度より分別収集を実施している。

こうした社会情勢の変化から、当初見込んでいた資源化率と現状の数値は大きく乖離することとなったが、廃プラスチック類については、指定法人ルートを活用することにより容器包装の資源化を図ることとなったため、後期実施計画では容器包装以外の廃プラスチック類と古紙資源収集以外の紙類を資源物の対象から除いた資源化率に目標値を修正する。

### 3. 目標達成に向けての取組み

#### 1) ごみ減量化への取組み

生ごみ処理機器の及びE M Iぼかしによる生ごみ処理の普及啓発  
段ボールコンポスト推進事業  
廃食用油のB D F化促進  
事業系一般廃棄物の排出抑制と資源化  
可燃及び埋立ごみ有料化の検討

#### 2) 中間処理における取組み

次期焼却処理施設の整備、現環境クリーンセンター焼却施設の延命化

#### 3) 最終処分における取組み

焼却残渣の発生抑制と資源化

#### 4) 不法投棄防止に対する取組み

不法投棄監視パトロールの強化等

#### 5) 啓発活動等の取組み

生ごみの堆肥化・減量化、マイバッグ持参運動推進、  
ごみマイスターの活用、スマートショップの活用

#### 6) 環境学習への取組み

生ごみ処理に関する地区説明会  
小中学校環境学習への支援